

○「さらに小地区の話合いへ」

(京都府宮津市 栗田地区連絡会議)(平成30年度第5回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年1月29日(火) 19:00~21:00
- 場 所: 宮津市栗田集会所
- 出 席 者: 農業委員2人、推進委員1人
協力員10人
※委員3人、委員以外10人
- 報 告 者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

2 地区の特徴、状況、課題

- 担い手は、認定農業者が2人いるが、それ以外がいない
- 農地の状況は、優良農地が遊休化している状況のなか、中津地区は農家組合が維持管理。小田宿野地区は、借地の場合は地主から管理料を徴収して農事組合法人が管理している

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 協力員が地区状況を報告。次回は、この地区(ブロックごと)に話し合いが実施される
 - ①新宮地区…耕作者16人。機械がなくなったら離農の恐れ
 - ②脇地区…専業2人。後継者なし
 - ③中村地区…農家3人。機械所有者1人。機械なし作業委託2人。後継者なし
 - ④小寺地区…ほ場整備地は遊休農地なし。平均年齢70歳。営農組織が作業受託。後継者なし
 - ⑤上司地区…未整備地区。機械所有者9人。高齢化で現状維持がやっと
 - ⑥中津地区…耕作者18人。うち10人は70歳以上。プラン作成を検討中
 - ⑦小田宿野地区…話合重視
 - ⑧田井地区…漁業主体。組織化が課題
 - ⑨脇の浜地区…移住者受入。他地域との連携。助言者希望



4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援